

在日コリアンの各世代のコード切り替えの差異について

The Difference of Code-switching among Generations of Koreans in Japan

金艶華 (Kin Enka) 博士前期課程2年 モンゴル・中央アジア研究分野

指導教官：柳田賢二 連絡先：jinyh427@net.cneas.tohoku.ac.jp (415 研究室)

キーワード：在日コリアン マイノリティー コード切り替え

世界中の多くの人々は、複数の言語が入り混じる生活環境の中で、日常生活を行っている。こうした生活環境においては、単一言語を使うよりも、むしろ二言語あるいは多言語を使うことの方が普通である。各状況によって適切な言語コードを選び、時によって、あるコードから別のコードに切り替えたり、コードを入り混じらせたりすることもある。

トラッドギル (1975, pp.146-47) はウガンダの首都カンパラの状況を記述している。ウガンダという国は多言語使用の国家である。カンパラでは、ウガンダ土着の民族やケニア、スーダン、ザイルなどから来た民族もある。多くの人々が自分の母語の他に、英語、スワヒリ語、ルガンダ語を話すことができる。どの言語を使うかについて、決定的な要素となるのは社会的な場面である。

また西村 (2000, pp.15-23) はトロントに在住する日系二世に見られる日本語と英語のコード切り替えを分析した。日系二世の中にはタイプが二つある。ずっとカナダに残った二世と、日本の文化や日本語を忘れてほしくないという一世の意向で日本に帰って、戦後またカナダに戻ってきた人々である。そういう人たちは帰加二世と呼ぶ。アメリカでは帰米二世という。その二世たちの英語は訛りが強く、それほど上手ではない。二世同士の会話では、日本語も英語も使う。ところが、日本から来た英語ができる日本人と話す時には、完全に日本語になる。次は二世同士の会話の例である。

例 1) **B.C.に行くとき、飛行機で行こうと思ってから、I bought it, eh? So, it's no finished yet. And it's hard, 'cause me なんかも、もう、本なんか読むと、cover-to-cover 読まなかったら、if I stop どっかで、I forget the story. One week later 読むでしょう? I gotta go back.**

金美善は日本国内最大のマイノリティーである在日コリアン一世の言語生活を記述した。一世の会話における両言語の混用を引き起こす要因には、両言語の習得度と文化的要因が大きく関わっている。

例 2) **언니가 이거 가지고 완? 아이고 미안합니다。**

(お姉さんがこれ持ってきたの? どうもすみません[ありがとう])

例 3) **お姉さんはまだ結婚しませんでした。**

(お姉さんはまだ結婚していない。)

以上は各国のコード切り替えを引き起こす要因と事例であり、本研究は在日コリアンの一世、二世、三世の人たちそれぞれのコード切り替えにおいて差異が存在することを明らかにすることを目的とする。また、近年においては韓国チャンネルやインターネットなどの影響でコード切り替えに新しい現象が起きていると考えられるので、そうした現象についても考察したいと思う。

参考文献：

金 美善 (2003) 「混じり合う言葉—在日コリアン一世の混用コードについて」、『言語』2003年6月号、pp.46-52、東京：大修館書店

P.トラッドギル著、土田滋訳 (1975) 『言語と社会』岩波書店

西村美和 (2000) 「コードスイッチング：日系カナダ人と日系ブラジル人を比較して」『バイリンガリズム — 日本と世界の連携を求めて』国立国語研究所